

平成29年度 学校自己評価システムシート

(私立 春日部共栄高等学校)

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。
--------	---

重点目標	1 社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 2 生徒からの期待や信頼に高い水準で応え得る授業の実践 3 生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実 4 生徒、保護者、卒業生をはじめとする学校関係者への情報提供の推進
------	--

達成度	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

＜学校関係者評価委員会＞	
協議委員(学校関係者)	7名
内部委員(教職員)	8名

学校自己評価				学校関係者評価	
年度目標			年度評価		最終実施日 平成30年3月31日
番号	評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識や情報モラルの向上を目指す継続的な指導 →学校生活アンケート設問1・2で①の回答率50%以上 設問3・4で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教師・生徒ともに「共栄七則」「十か条」が規範意識の柱として定着している様子である。 スマホ・携帯の使用禁止には限界があり、時代や社会に応じたルールを設け、節度ある使用を指導していかなければならない。 自転車の交通マナーについても、高い数値を示しているが、ちょっとした不注意や油断が事故や苦情に繋がっていると思われる。 自治活動については、校内での定着は見られるものの、教師主導の働きかけが中心で、生徒主体の活動まで至っていないのが実情。 ボランティアに対する教師側の働きかけは高まっているが、将来の夢や目標と絡めた提示をすることで、生徒側の反応もさらに良くなるものと思われる。 全国大会、関東大会出場クラブも多く、その頑張りを、他の生徒にうまく伝えていったり、お互いを認め合っている様子が見られる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識に関する自己チェックでの数値は高いが、さらに、どんな状況でも誠実に対応できる人間性を育てていく必要がある。 スマホ・携帯については、時代に応じたルール作りをすすめる。また、情報モラルについては、関連機関との連携を図り、生徒・保護者を対象にした講演会などを定期的実施する。 自転車保険加入の義務化に伴い、周知徹底と事故防止のために関連機関との連携を図る。 生徒の主体的な自治活動を確立させるため、教師と生徒の意思疎通を図り、教師主導型から生徒主導型の自治活動への移行を目指す。 ボランティア活動や主権者教育をキャリア教育の1つに位置づけ、将来の進路選択に役立てられるように指導していく。 特定クラブに偏らず各クラブの目標や実情に応じた情報提供として「快音」を活用したり、クラブ部長会議やクラブ会議を通してお互い応援し合える雰囲気をつくっていく。
	②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的発信を軸にした自治活動の確立 →学校生活アンケート設問5で①②の回答率80%以上 ボランティアに対する意識啓発と年間を通じたはたらきかけ →学校生活アンケート設問6で①②の回答率80%以上 災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 →学校生活アンケート設問7で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「快音」等を利用した啓蒙活動の充実とお互いを認め合う意識づくり →学校生活アンケート設問8で①②の回答率80%以上 	B	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン・携帯電話利用に関する共栄ルールについて、これから導入される学習用アプリケーションの活用法と絡めながら、生徒・保護者に説得力のある形で示していくことが大切である。また、教員間でも共通認識をもって対応して欲しい。 ボランティア活動の情報提供を見ると夏期休業中の情報が乏しいような気がする。時間的に余裕があるこの時期の活用を積極的に考えてもよいのではないかと考える。また、組織的かつ定期的な取り組みを促していくことも大切であるとする。
	③生徒どうしが互いに応援しあい、達成感を共有できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の模範モデル(先輩に学ぶ)の定期的な提示 →学校生活アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 生徒個々の家庭学習計画の作成と実践(日課表・スライドボードの利用) →学校生活アンケート設問10～12で①②の回答率70%以上 重要問題を起点とした授業中心の学習スタイルの確立 →学校生活アンケート設問13で①の回答率70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの活用による授業点検と改善 →授業アンケート総合満足度で①②の回答率85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習モデル」等の提示は一定の持続的効果を上げている。今年度は学年別・コース別の「進学通信」を発行できた点が評価できる。 ここ数年の家庭学習の微増傾向は、日課表等を利用した指導の成果。他方、計画作りで苦労している生徒には引き続き個別対応が必要。 「重要問題」重視の姿勢を利用して「定期試験」に向けて生徒をリードできている。スパイラル学習やアクティブラーニングの側面を取り込みつつ更なる充実を図りたい。 総合満足度は高評価。懸念される部分については個別対応した。また、アンケートの結果が教員の研鑽材料としての役割も持っている。 アクティブラーニング関連については、前年度からの研修への参加・受講が、今年度の実践的な取り組みへとつながっている。 	A
2	①生徒の自己学習力育成を可能にする授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の模範モデル(先輩に学ぶ)の定期的な提示 →学校生活アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 生徒個々の家庭学習計画の作成と実践(日課表・スライドボードの利用) →学校生活アンケート設問10～12で①②の回答率70%以上 重要問題を起点とした授業中心の学習スタイルの確立 →学校生活アンケート設問13で①の回答率70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習モデル」等の提示は一定の持続的効果を上げている。今年度は学年別・コース別の「進学通信」を発行できた点が評価できる。 ここ数年の家庭学習の微増傾向は、日課表等を利用した指導の成果。他方、計画作りで苦労している生徒には引き続き個別対応が必要。 「重要問題」重視の姿勢を利用して「定期試験」に向けて生徒をリードできている。スパイラル学習やアクティブラーニングの側面を取り込みつつ更なる充実を図りたい。 総合満足度は高評価。懸念される部分については個別対応した。また、アンケートの結果が教員の研鑽材料としての役割も持っている。 アクティブラーニング関連については、前年度からの研修への参加・受講が、今年度の実践的な取り組みへとつながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教務部主体で、進路指導部、学年と連携してLHR計画を立案し直し、より有効な諸資料の提示と活用を努める。 基本となる「計画モデル」は共有されている。更に、各コース・クラス担任ごとに狙いを絞った「個別対応計画モデル」を個別面談等で提案できるように引き続き準備を進めていく。 スパイラル学習やアクティブラーニング等を授業内容の充実につなげ、それらが更に「重要問題」「定期試験」に反映されるよう目指す。 アンケート結果を研鑽の材料として、今後も積極的な活用を促していく。個別対応が必要な部分は速やかに改善策を講ずる。 個々のアクティブラーニング授業の実践例を提示し、共有すべき好例をまとめ上げながら、それを「考える授業」につなげていく。
	②授業点検と改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの活用による授業点検と改善 →授業アンケート総合満足度で①②の回答率85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「快音」等で全国大会常連クラブの活躍ばかりでなく、マイナーなクラブの情報も積極的に発信していくことが、生徒からみた部活の選択肢を広げることにつながるかと考える。 学習の模範モデル(先輩に学ぶ)の提示や卒業生による進路説明会等で、成功例だけでなく多様な実例を示してくれており、生徒もより身近なこととして捉えている様子である。 これからの教授法としてアクティブラーニングの導入は高校でも大学でも不可欠である。出張授業の活用や教員どうしの合同勉強会等、系列である共栄大学との連携をより密に図り、推し進めていってはどうか。 		
3	①生徒の可能性を引き出し、生徒個々に応じた進路開拓と大学選択	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた説明会、講演会、「進学通信」等を利用した意識啓発 →学校生活アンケート 設問14で①②の回答率80%以上 オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 →学校生活アンケート 設問15で①②の回答率80%以上 生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 →保護者アンケート 設問8で①②の回答率80%以上 各種講習や試験の整理、充実と活用 →学校生活アンケート設問16、17で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 設問14、15ともここ数年安定した数値であるが、引き続き、より具体的で生徒の理解や取り組みやすさを追求する形が必要がある。 設問16の講習については、なかなか満足度の上昇がみられない。日程面でも生徒が参加しやすく、また内容面でもより魅力的な講習を提供することが必要。 設問17は安定した数値で推移しているが、さらにIT教材などを活用して、生徒の自学自習を促していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会で保護者へより具体的な情報を提供するため、コース別の進路説明会などを開催し、推薦入試などの詳細な情報を提供する。また、進路説明会を通して、ポートフォリオなどに関して保護者への理解を図る。 講習の形式は踏襲するが、講習の内容、展開も工夫を施し、講習の質を上げるための取り組みを促す。 各コースの状況に応じたより細かい講習内容を実施していく。
	②進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの刷新による充実と効果的な運用 →保護者アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 保護者向け一斉メール配信の有効活用 →保護者アンケート 設問10で①の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧した方々の数値は目標を達成できているが、まだ40%近くの方が「見ていない」と回答。最新情報の更新だけでなく、それ以外のページの内容も最新の状態に保つ必要がある。 目標には今一歩だが、有効に活用できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 在校生の保護者だけでなく、募集の観点からも、全ページの情報の即時更新が求められる。また、学校行事ごとの特設ページを作成する。 プリント配布のお知らせだけでなく、その内容をPDF等で配付することを検討していく。
4	①本校Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの刷新による充実と効果的な運用 →保護者アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 保護者向け一斉メール配信の有効活用 →保護者アンケート 設問10で①の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧した方々の数値は目標を達成できているが、まだ40%近くの方が「見ていない」と回答。最新情報の更新だけでなく、それ以外のページの内容も最新の状態に保つ必要がある。 目標には今一歩だが、有効に活用できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 近隣私立中高もブランド力を上げてきている中、「共栄に入学すると将来こうした道が開ける」といった道筋がみえるような教育活動に期待する。